

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104100
法人名	有限会社 ウェルケア
事業所名	グループホーム ひまわりの里
訪問調査日	平成 20年 7月16日
評価確定日	平成 20年 8月22日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104100
法人名	有限会社 ウェルケア
事業所名	グループホーム ひまわりの里
所在地	鹿児島市吉野町5916-1 (電話) 099-295-8631
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年 7月 16日

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 7人, 非常勤 10人, 常勤換算 12.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り平屋建て		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	8,400円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (27,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名	
要介護1		2名	要介護2		8名	
要介護3		6名	要介護4		1名	
要介護5		0名	要支援2		0名	
年齢	平均	84歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしの相良外科 宮ノ下歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部の小高い住宅地に建てられ、小中学校が近く、民家に囲まれて落ち着いた雰囲気のホームである。病院勤務の経験を持つ管理者により運営され、重度化や終末期についても、在宅医療専門の医療機関による支援を得ながら対応している。職員の育成については、日常業務の中でそれぞれに応じた指導を行い、資格取得を目指す職員に対しては勤務上の配慮を行うなど、職員の資質とサービスの質向上を目指して積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の手当、感染症対策等、前回の改善課題の大半は、職員会議等で改善策を話し合い取り組んでいるが、運営理念の啓発等は課題として残されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットリーダーを中心に自己評価を実施しているが、他の職員の関わりが十分とは言えない。改善事項に関しては、職員会議等で話し合い、全員で取り組んでいる。評価の意義や活用方法を再度確認し、評価の一連の過程を通じて、全職員で質の確保・向上に取り組んでいただきたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成18年12月以降、運営推進会議が開催されていない。早期に再開し、ホームの活動状況や入居者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等を報告し、これについて助言を受けたり地域との交流促進のための話し合いを行っていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月当番を決め、入居者の暮らしぶりや健康状態を個別にお便りとしてご家族宛に送っている。また、ご家族の面会の都度、日頃の入居者の様子について話したり、適宜電話による報告も行っている。ご家族にアンケートをとり、意見や要望が寄せられた場合、管理者及び職員で話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の施設との交流があり、お祭りに参加したりヘルパーの見学受入を行っているが、地区外からの入居者も多く、地元の人々との交流が多いと言いがたい。地域の一員として、自治会や老人会、地域での行事等への参加が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各職員にアンケートをとり、これまでの理念を見直して新たに独自の理念をつくりあげている。		地域密着型サービスとして、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくことがわかるように、さらなる検討に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やトイレに掲示しており、職員は毎日確認している。また、「尊厳・自立・安心」を柱に、日々入居者に向き合いながら理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の施設との交流があり、お祭りに参加したりヘルパーの見学受入を行っているが、地区外からの入居者も多く、地元の人々との交流が多いとはいえない。	○	地域の一員として、自治会や老人会、地域での行事等への参加が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に自己評価を実施しているが、他の職員の関わりが十分とは言えない。改善事項に関しては、職員会議等で話し合い、全員で取り組んでいる。		評価の意義や活用方法を再度確認し、評価の一連の過程を通じて、全職員で質の確保・向上に取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年12月以降、運営推進会議が開催されていない。	○	早期に再開し、ホームの活動状況や入居者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等を報告し、これについて助言を受けたり地域との交流促進のための話し合いを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受入を毎年行っている。また、生活保護、介護認定の切り替え等頻繁に行き来があり、行政との連携は十分に取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月当番を決め、入居者の暮らしぶりや健康状態を個別にお便りとしてご家族宛に送っている。また、ご家族の面会の都度、日頃の入居者の様子について話したり、適宜電話による報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にアンケートをとり、意見や要望が寄せられた場合、管理者及び職員で話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等は最小限になるよう心がけているが、病気療養等、やむを得ず退職に至るケースもある。日頃よりユニット間で相互に職員が行き来し、職員が交代する際も全体でフォローするように日頃より配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングの際、管理者が中心となり日々のケアに直結したテーマで勉強会を行ったり、リーダーに対する個別指導等を実施している。また、社会福祉士の資格取得を目指している職員の病院実習(1ヶ月)を支援するなど、職員の資質向上に取り組んでいる。		ホーム内研修や外部研修等の年間計画をはじめ、職員の経験や知識に応じて段階的に育成する計画を作成して、さらなる資質の向上に取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、研修会等で他施設の管理者と交流を持ち情報交換を行っている。職員レベルでの相互訪問を計画したが、日程の都合で実施には至っていない。		勉強会や相互訪問等、職員レベルでの交流を実現して、サービスの質向上を目指していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族によるホームの見学や、体験入居(宿泊体験を含む)を行うことにより、安心して入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の方法、味付け、戦争の体験談等々、入居者から学んだり教えていただく場面をつくるように働きかけ、本人とともに過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント情報を基に、以前の暮らしと変わらず本人の希望にそった暮らしができるように努めている。本人との会話や、コミュニケーションが困難な場合は身振り手振り、表情等で意向の把握に努めている。また職員間で統一したケアを実施するために、「重要事項申し送り簿」を作成して情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やご家族、及び日頃入居者と生活をともにしている職員の意見を十分に反映した介護計画とは言いがたい。	○	介護計画の作成にあたっては、入居者及びご家族、必要な関係者(かかりつけ医や職員)と話し合い、それぞれの意見を反映した上で、本人及びご家族の同意を得ることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	骨折等による入院など状態が大きく変化した場合、新たな介護計画を作成しているが、それ以外は計画の見直し(変更)は行われていない。	○	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画の作成が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の外来受診支援、在宅医療（訪問看護、訪問診療、訪問歯科等）の利用や人工透析を受けながらホームでの生活を継続するなど、多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人やご家族の希望するかかりつけ医の受診を原則として、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居にあたり、かかりつけ医や協力医療機関の医師と重度化した場合や終末期のあり方について話し合うとともに、入居契約の際に管理者から再度説明している。また、状態の変化に伴い繰り返し話し合い、方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉だけではなく、身振り手振りを交えたコミュニケーションも大事にしなが、お互いに良好な関係を築き、それぞれの誇りやプライバシーに配慮している。記録等の個人情報に関しては、事務所で一括管理して適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの際など、必ず声かけするが無理強いはしていない。全て入居者の希望にしたがって支援するように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、配膳、下膳、茶碗洗いなど、できる方には手伝っていただいている。また、献立も極力入居者の希望を聞きながら作成しており、食事が楽しめるように取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や曜日はある程度決めているが、その日の入居者の希望に臨機応変に対応している。また、状況に応じて、適宜シャワー浴や足浴、清拭など柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケやエレクtoon演奏、自宅から連れて来た飼い犬の世話や園芸など、それぞれの生活歴や力を活かした楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望も考慮しながら、極力戸外に出るよう働きかけている。お墓参りや友人宅の訪問、衣替えのための帰宅など、柔軟に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に鍵はかけていない。派出所にも状況を説明しており、非常時の協力を依頼している。入居者に外出したい様子が見られる時は、引き止めることはせず一緒に寄り添うように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応手順等を事務所に掲示して、日頃より管理者が指導しているが、組織的な避難訓練等は実施していない。地域の人々に対して、災害時の協力要請は行われていない。	○	入居者一人ひとりの状態を踏まえ、昼夜を通した災害時の具体的な避難策について検討し、非常の際確実に避難誘導ができるように日頃から備えておくことが求められる。また、職員だけの避難誘導の限界も認識し、地域の人々の協力が得られるように働きかけを行うことも早急に検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については逐次記録しているが、水分摂取に関しては、食事とお茶で摂取できるように支援し、目安としている水分量が不足する場合は申し送りにより対応している。栄養バランスについては外部の栄養士により高齢者の食事に関する資料をもらい、それを参考に献立を作成してホーム長が随時チェックしている。		食事摂取量の記録と同様、水分摂取についても確実に支援できるように、職員間での情報共有の手段を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕や鯉のぼりなど、季節を感じさせる飾り付けを行ったり季節の花を飾るなど、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷蔵庫やテレビ、タンスなど使い慣れたものを持ち込んだり、ご家族の写真を飾ったりしている。また、自宅で飼っていた犬を連れてきて一緒に生活するなど、本人が居心地よく過ごせるように支援している。		